

21 世紀のおやじ達へ

平和幼稚園園長 菅原 孝悦

～21 世紀の日本社会をどう見ていますか？

21 世紀に日本という国に期待できるものは少ないと言わざるを得ない。

日本は大戦後 50 年の間アメリカに属国化し、甘やかされた状態に慣れてしまっている。

欧米先進国が既に自律した大人であるのに、日本は身体だけ大きくなった子供のままで。

20 世紀の間、アメリカは日本に対してあたかも対等な国であるような顔をしながら、日本を利用してきた。イデオロギーの対立の中、冷戦下の最先端の場所として、アメリカの軍事戦略の中で日本を利用し、見返りに甘やかしてきた。

だが、ソ連が崩壊し南北朝鮮が歩み寄り、前線基地としての日本の役目は終わった。

今日本は本当にアメリカから独立・自立する時だが、今の日本にその実力はない。

戦後 50 年を経て、これから本当に敗北を実感するようになるだろう。

そういう状況になると、日本の社会の屋台骨であった、家、家族、男親の権威というものは全部はぎ取られ、個人主体の世界になる。

そうなると、もう滅私奉公を支えにした日本型組織による創造性は期待できない。

そして、日本の人材は全部アメリカに持って行かれる。

日本ではどんなに努力して人材を育てても、それを生かせる場ではなくなる。

そのような状況にあることを多くの日本人は認識していない。

幼稚園に研修に来たオーストラリア人に「今の日本をどう思う？」と聞いてみたが、「日本は食糧から何から、外国から集めているが、買う金がなくなったらどうするのか？」と心配していた。そう心配するのがあたりまえなのだが、日本人だけが極楽とんぼでなにも分かってない。

～21 世紀の子供とおやじの関係は？

このまま日本が推移すれば、親は老後について子供をあてに出来ない時代がくる。

自分の育てた子供が自分の支えになるとか、面倒を見てくれるとか、一緒に暮らすとか、そういうことを期待できないのが 21 世紀だ。

親として自己責任で、この先そして老後を生

きて行く、そして死んで行くことが求められる。

俺が育てたのだから二世帯住宅でも建てて子供に看て貰おうとか、苦勞して来たのだし、孫の顔を見ながらのんびり暮らそうとか、そんなことはこれからの日本では期待できない。

極言すれば、親と子はバラバラに生きて行かなければならない時代なのである。

例えば、子供は地球のどこにいてもいいし、必ずしも日本人の伴侶を持つとは限らない。もし息子が外国人女性と結婚したとすると日本に永住する保証はない。

老後の会話は「私達にも息子が 2 人いたのですよ。今は二人とも地球の裏側で暮らしています。ときどきメールはありますけど」という具合になる。

そういうことで子供を優秀に育てるほど、親子の縁はなくなる。

～21 世紀の子供に求められることは？

まずは、忍耐力だ。

大リーグ球団との契約がまとまったイチローに対して球団のオーナー（日系人だそうだが）は「彼に必要なのは忍耐力」と言っている。

アメリカは日本のような甘えた社会ではない。あらゆるプレッシャーがかかってくる。それに打ち勝つ体力と精神力・忍耐力がなければ生きて行けない。世界を見渡すと今の日本の甘い社会が特異なのである。

忍耐といえば、手がかじかんで字がかけない、足が冷たくて我慢していたら凍傷になっていた、そんな学校生活が 1 世代前には当たり前だった。今のこの幸せな日本社会は長い歴史における一瞬の幻想にすぎず、あなた達はこの先に私たちの世代が経験したような辛い歴史の世界に戻されるかもしれない。

耐える力がまさに「生きる力」となる。個人個人が自分の責任で生きて行かねばならない。

今までは誰かが何とかしてくれたが、社会福祉がどうのこうのということはみんなの懐具合の良い豊かな時代の話であって、ひもじくて、ものが無いときにみんなで分ける方法を論議したりしていられない。

我慢することを身につけた人間が生き残る。

そういった意味で女性の社会になる、という言い方もできる。

女性は生まれながらに、それぞれ異なる固有のリズムを持っていて、それが故に必ず強烈な孤独の世界を体験する。そして、その体験により強くなり、ものすごい適応能力を持つ。

女性は強く環境適応能力が高いので、これが

らは女性的生き方が求められるのだ。

男性はもともと弱く、過酷な条件に置かれればへなへなになる。リストラされて自殺するのは決まってお父さんだが、そんな弱い男は必要とされない。

ふたつめ、今までの日本は組織の中で認められなければ個人の価値も能力も認められなかったが、21世紀は組織に頼らないで能力を発揮できるような人間でないと生きていけない。

程なく年功序列、終身雇用といった日本のシステムはあっけなく崩壊する。

現在は「あなたの職はなんであるか？」というのが組織の中での評価だが、これからは「あなたは何か出来るのか？」と、あくまで個人の能力が問われる時代になる。

いまのお父さん方は幸せな時代に育ってきたが、50才位までの間に日本の社会は大きく変わる。いままで耐える経験のないあなた方は一番辛い思いをする世代かもしれない。

その上、将来子供は親許を離れて地球の裏側に住むかもしれないので、子供と縁の薄いお父さんは今のうちにべたべたした方が良いかもしれない。(笑)

～お父さんが子供達にしてやれることは？

時代はそんな風に変わってきているのに、少子傾向のためか親は子離れしないでいつまでもべったりくっついていて。それでは子供が親から離れて違う世界で生きて行けない。

子供にとって不幸を招いているのは火を見るより明らか。子供のことを考えるなら子供から離れ、自立した子供を育てること。

子供は親のものではない。子供に孝行してもらうのではなく、子供を不幸にしない親でなければ、それが子育ての基本ということを心に留めるべきである。

そして、お父さんは真心こめて語ることが必要である。

親は子供に自分の経験したこと、成功したこと、失敗したこと、どうしてこんな世の中になったのかを伝え、引き継がなくてはならない。

日本の大きな間違いは、正しい歴史を子供に伝えてこなかったことだ。私は毎年8月に『暗国日記』を四十数年読み続けているが、これは昭和16年に出兵し20年の終戦を迎えるまでの日記で、自分の青春時代と重なる。

戦争は日本だけ悪いのではない。欧米の包囲作戦に載せられ悲惨な状況に陥った側面もある。

結局、資本主義が悪かった。人類の経済史の中では仕方がなかったが、資本主義経済の中で

の外国つぶしが軍事に繋がり、それがぶつかり合って戦争になった。結果として日本はアメリカの占領政策でこうなった。

そういったことも含めて説いて聞かせながら子供達の心を育てていくのが親の役目。

～職場と家族の板挟みのおやじ達にエールを

お父さん方は、管理社会、組織の中にどっぷり浸かっていて、自分の立場とかあるべき姿とかに縛られて、独りで悩んでいる。

「私」になりなさい。一人の男になりなさい。

自分のアイデンティティ、主体性を持てば職場にも女房にもゴマする必要がなくなる。

日本は仏教国と言いながら聖徳太子が国づくりを始めて以来、儒教の呪縛にかかっている。

もともと孔子が「国家のためにはその単位である家庭をしっかりとしないと」と、国家と家庭を結んでしまった。

一方老子はそんなばかげた事は考えず、慈しみの心 身の程を知った生活 人の上には立たないを「心の三宝」として無為自然に生きた。

そして老子は孔子を、「知ったかぶりで真理を語るのは自分のバカさ加減を披露しているようなものだ」と嘲笑したというが、日本人はその孔子の姿を延々と受け継いでいる。

無為自然に、そして個になって、自分個人をしっかりと見つめて、心豊かに生きなさい。

一人の男としておやじとして子供とかかわること。個に帰るのだ。

～最後に子育ての秘策があれば

人が育つ最低必要条件であり最高のものは「朝目を覚まし、夜寝る」ということだ。人間は何十万年も昼間に働いてきた動物である。昼型動物として育てられれば脳は正常に働く。最近の親は子供の顔が見たいからと自分の都合で子供を夜遅くまで起こしておき、朝寝坊を容認する。受験となると母親は丁寧に夜食までつく。

夜型人間になると、昼間は脳の機能が弱って判断が出来なくなる。あるべき脳の働きが犯されている。昼型になれば少年犯罪の9割は防げるが、親も夜型なら犯罪はなくならない。

子供達にどんな21世紀社会を引き継ぐか、それは全て大人にかかっているのです。

21世紀のスタートにあたり、個になって、次世代を託す子供達に何が必要か、何をすべきかをじっくり考え、そして是非夫婦で話し合って頂きたい。

担当：なみかわ

E-mail：namikawa@mpd.biglobe.ne.jp